

## 文化財の放射線対策に関する調査研究（保修）

### 目 的

本プロジェクトは、主として2つの項目からなる。1つ目は、2011（平成23）年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故の文化財影響の把握、調査手法、移動方法、除染方法等に関する研究である。2つ目は、放射線災害から文化財を守るための事前準備、常時監視のあり方、事故時の緊急対応等に関する研究である。これらの研究を平成24年度、平成25年度の2カ年計画で行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめる。

### 成 果

本年度は、放射線量の測定方法、環境評価等に関するワーキンググループ（WG）1と汚染状態の現状把握と除染方法等に関するWG2を設置し、具体的に活動を進めた。博物館・美術館等の文化財施設には、放射線被害に関する危機管理マニュアルはないので、WG1では危機管理マニュアル作成のための会議を3回開催した。またWG2は福島県での現地調査も含めて2回開催した。またプロジェクトチーム（PT）会議を2回開催した。

2月12日に、東京文化財研究所会議室で、「文化財の放射線対策に関する研究会」を行った。参加者は、50名であった。プログラムは、(1)研究会の趣旨説明 石崎武志、(2)除染に関する基本的な考え方 桧垣正吾、(3)福島県立美術館での放射線対策について 伊藤匡、(4)放射線量の測定方法、環境評価等に関するWG1活動報告 佐野千絵、(5)除染方法等に関するWG2活動報告 北野信彦、(6)総合討論、という形で行われた。総合討論は、活発に行われ有意義なものであった。2月13日には、「文化財の放射線対策に関する調査研究プロジェクトチーム会議が開催された。ここでは、今後の方針が議論され、作成した危機管理マニュアル案を東文研HPで公開し、広く意見を求めることにした。

### 研究組織

○石崎武志（副所長）、岡田健、佐野千絵、早川泰弘、木川りか、朽津信明、北野信彦、中山俊介、吉田直人、犬塚将英、早川典子、佐藤嘉則、森井順之（以上、保存修復科学センター）、降幡順子（奈良文化財研究所）、神庭信幸（東京国立博物館）、浅湫毅（京都国立博物館）、谷口耕生（奈良国立博物館）、今津節生（九州国立博物館）、松本透（東京国立近代美術館）、村上博哉（国立西洋美術館）、山本智代（森美術館）、丹野隆明（福島県教育庁）、伊藤匡（福島県立美術館）、松田隆嗣、杉崎佐保恵（以上、福島県立博物館）、桧垣正吾（東京大学）、薬袋佳孝（武蔵大学）、久保謙哉（国際基督教大学）

### 備 考

本研究は所長裁量経費にて行われた。事業期間は、2012（平成24）年4月～14（平成26）年3月である。



仏像の除染試験の様子



研究会での講演の様子